

## 当院 2020年1月1日～2023年5月31日の間に 当科においてCT検査を受けられた方及びご家族の方へ

### 「伏臥位アブレーション術前心臓(CT Angiography) CTA 検査における 造影効果に関する研究」へのご協力をお願い

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者	川崎医科大学附属病院	中央放射線部	診療放射線技師	佐藤 舜
研究分担者	川崎医科大学附属病院	中央放射線部	診療放射線技師長補佐	池長 弘幸
	川崎医科大学附属病院	中央放射線部	診療放射線技師 主任	佐内 弘恭
	川崎医科大学附属病院	中央放射線部	診療放射線技師	森分 良
	川崎医科大学附属病院	中央放射線部	診療放射線技師	矢尾 大輝
	川崎医療福祉大学医療技術学部	医療技術学部	診療放射線技術学科講師	舛田隆則

#### 1. 研究の概要

病気の原因の解明、病気の予防・診断・治療の改善、生活の質の向上などのために、人を対象として行われる研究のことを臨床研究といいます。より良い医療の発展のために、多くの患者さんに臨床研究にご協力頂くことが必要です。

これまでの研究で、うつ伏せで行う造影 CT 検査は左心耳内の血栓の発見に有効であることが報告されています。当院でもこの目的のためうつ伏せで造影 CT 検査を行っています。しかし、うつ伏せで造影 CT 検査を行う場合、姿勢の変化により仰向けで造影 CT 検査を行う場合と比べて、造影効果が変化する可能性があります。そのため今回の研究では、当院で2020年1月～2023年5月の間に撮影されたCT画像データより、心臓造影データを抽出して解析を行い、心臓の造影効果の検証および造影タイミングの把握を行います。その後、当院の伏臥位心臓CT検査に求められる最適化策について検討を行うことを目的とする。

#### 2. 研究の方法

##### 1) 研究対象者

2020年1月1日～2023年5月31日の間に当院でCT検査を受けられた方を研究対象とします。

##### 2) 研究期間

倫理委員会承認日～2025年3月31日

##### 3) 研究方法

2020年1月1日～2023年5月31日の間に当院でCT検査を受けられた方で、研究者が当院に保存されている心臓造影CT検査データを用いて解析を行い、心臓の造影効果、CT装置における特性の実態を明らかにし、当院の心臓造影検査に求められる最適化策について検討を行う。

#### 4) 使用する情報の種類

患者情報：年齢、性別、身長、体重等

スキャン情報：検査部位、撮影開始タイミング、X線照射条件、CTスキャン条件、画像再構成条件等

線量情報：装置表示CTDIvol、DLP等

画像情報：CT値等

#### 5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、パスワード付きの専用USBメモリに記録し、川崎医科大学附属病院 中央放射線部 CT検査室の施錠可能な保管庫に保存します。

#### 6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2024年6月31日までに下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

#### < 問い合わせ・連絡先 >

川崎医科大学附属病院 中央放射線部 CT検査室

氏名：佐藤 舜

電話：086-462-1111 内線 21543（平日：8時30分～17時00分）

#### < 研究組織 >

研究代表機関名 川崎医科大学附属病院

研究代表責任者 川崎医科大学附属病院 中央放射線部 診療放射線技師 佐藤 舜

共同研究機関

川崎医療福祉大学 医療技術学部 診療放射線技術学科 講師 舛田隆則

### 3. 資金と利益相反

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究では資金の受け入れ及び使用はありません。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学および川崎医療福祉大学の利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。